★☆★☆ウンカ情報　No.4★☆★☆

平成１９年８月１３日付
島根県病害虫防除所

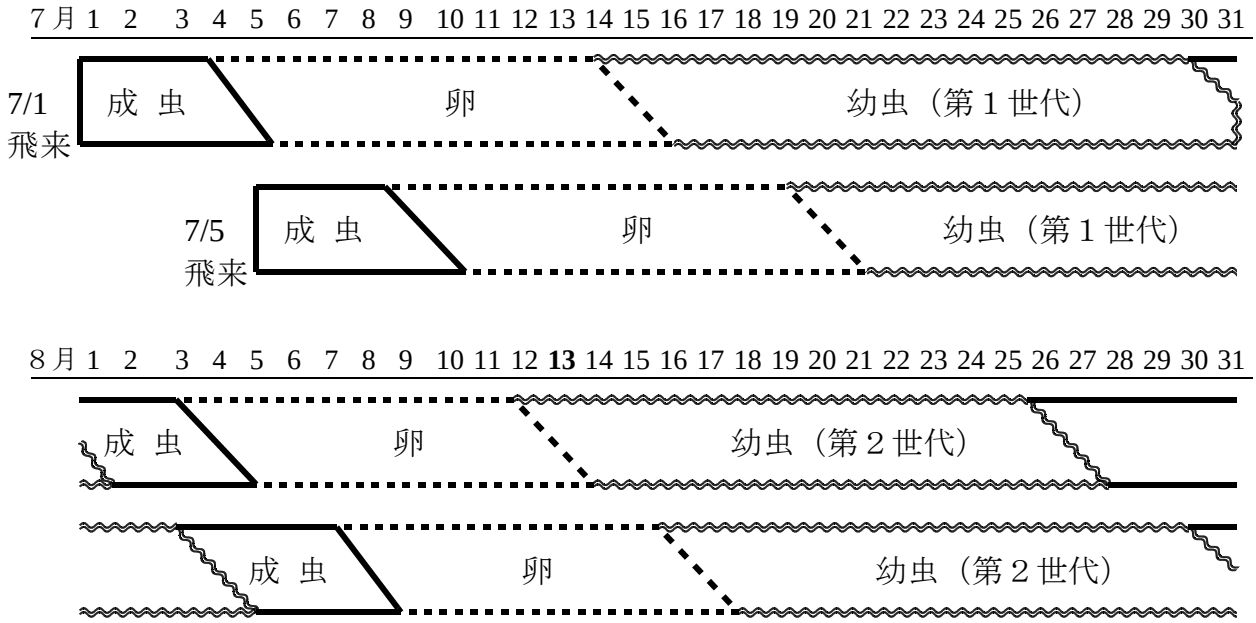
☆トビイロウンカ：過去１０年間で平成１０年に次ぐ多発生！
圃場全体の状況を把握して防除の徹底を！！

◎　８月９～１０日払い落とし調査結果（平坦部）

	発生圃場率	50株当り虫数	短翅率
県東部	３８％	２．０頭	６９％
県西部	４２％	３．８頭	８１％
平　均	**４１％**	**３．０頭**	**７６％**
平年値	**４％**	**０．２４頭**	※H10を除く
昨年	２４％	１．２頭	
H10年	８４％	３５．２頭	

１０日には圃場で新成虫が出そろったと思われます。過去１０年間では発生量が多く、多発生の平成１０年を除いた平年値と比較すると約１３倍、昨年比較で約３倍の発生が見られます。現状では要防除水準の１頭／株には達していませんが、本年は短翅率も高く増殖型と考えられます。**トビイロウンカの圃場内分布は局部的であるので、圃場全体の発生状況を的確に把握し防除を徹底してください。**

◎　実測・平年値を用いた有効積算温度計算から７月１日及び５日飛来群の発生予測パターンを作成しました（JPP-NET病害虫発生予測システム）。



８月第１半旬
①第１世代老齢幼虫
～次世代成虫期

８月中旬
②第２世代若中齢幼虫期
（防除適期）

（注）８月１３日以降の気温が平年と大きく異なった場合は、本予測パターンと異なることがあります。

◎トビイロウンカの防除適期
①第１世代老齢幼虫～成虫期に株当たり１頭以上のトビイロウンカが生息すれば、
②第２世代若中齢幼虫期に防除が必要です。

☆セジロウンカ：生息密度は急速に低下しています。現状では防除の必要はありません。

☆コブノメイガ：コブノメイガは８－９日頃から発蛾盛期を迎えています。穂揃い期を迎えていない作型では、周辺の発生状況に応じて、粒剤は発蛾盛期で即時、粉剤・液剤は孵化幼虫期の１７～２０日頃の散布を検討してください。
（注意）パダン粒剤の使用時期：収穫３０日前まで

☆最新の農薬登録状況
独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。
農薬検査所のアドレスは　http://www.acis.go.jp/

農薬の安全使用の徹底を！

・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を尊守する。
・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
・有効期限切れ農薬は使用しない。
・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所
（島根県農業技術センター　資源環境研究部　病虫ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
〒693-0035 出雲市芦渡町2440
TEL 0853-22-6772 FAX 0853-24-3342
e-mail　ksmn0301@sp.jppn.ne.jp